

# 朗読CDで名作を楽しもう！

本を開くと広がる名作文学の世界。ところが本を開かなくても名作を味わうことができる方法があることをご存じだろうか？ 今回は名作を聞いて楽しむ「朗読CD」について触れたい。

## ◎豆知識

「新潮カセットブック」

CDという媒体が一般に普及する

以前の1985年、新潮社が新潮カセットブック『小林秀雄講演文学の雑感』を発売、その後講演だけでなく「竹取物語」などの古典から現代文学、外国の名著、落語まで幅広い分野の作品を揃えた。

この「新潮カセットブック」が発売されたのを端緒に、同様のカセットブックが各出版社から発売され、国内でオーディオブックが一時盛り上がりを見せた。

どこかつかいにくい音と雰囲気そのまま閉じ込めたような新潮カセットブック。中野区立図書館にも約100点ほど所蔵しているのですが、興味を持たれた方は聴いてみては？

## ① 朗読CDとは？

そもそも「朗読CD」とは、何のことを指しているのだろうか。おもに書籍を朗読したものを録音したコンテンツのことを「オーディオブック」と呼ぶが、そのなかでCDを媒体としたものをCDブック・CDブックレット・CD文庫などと呼んでいる。落語や怪談、著名人の講演、などを耳で楽しむことができるほか、語学の学習教材としても利用されており、その中で書籍を朗読したものが「朗読CD」と呼ばれている。意外に身近な朗読CD、その特徴をいくつか挙げてみる。

## ② メリット沢山！ 朗読CDの特徴

### ① 目が疲れない！

読み始めた本の内容に夢中になって読書をした結果、目を使いすぎてぐったりしてしまった経験を持つという方は少なくないだろう。その点、朗読CDなら細かい文字を目で追う必要が無いので、目が疲れることが無い。

さらに、文字が小さくて読みづらい・文字の色が薄くて読みにくいなどの視覚的な問題に悩まされることもないので、視力の弱い人や老眼の人も楽しみやすいのではないだろうか。

### ② 「ながら」ができる！

手で本を持ち、目を使って内容を読むということに専念しなくても、CDを流して聞くだけでよいので、作業を行いながら気軽に楽しむことができる。例えば通勤中、身動きのできない満員電車の中で、時代小説に描かれる江戸の空気を味わう、炊事や掃除・洗濯をしながら近代の文豪の名文を楽しむなど、手が空いていることで時間を有意義に使うことができるのだ。

### ③ 名優の演技を楽しめる！

朗読CDのなかには名優が朗読しているものもあり、その人の演技が作り出す世界観が味わえる。朗読者というフィルターを通して物語を聴くことにより、普段本を独りで読み進めている時には味わえない新しい発見があるかもしれない。

## ③ 中野区立図書館が所蔵する朗読CD

中野区立図書館では朗読CDを豊富に取り揃えている。新しいものでいえば、発売以来、図書において長く予約件数トップであった又吉直樹『火花』をCDで所蔵していることをご存知だろうか。こちらは俳優の堤真一が朗読を務めており、視聴覚資料としても人気の高い作品である。

この他にも、図書資料で貸出の多いものをCDでも所蔵している作品がある。例えば、時代小説をシリーズで発表している藤沢周平作品が挙げられる。こちらは『男はつらいよ』で知られる映画監督、山田洋次が監修・解説を務めている。朗読は山田監督作品でお馴染みの、倍賞千恵子や笹野高史、竹下景子などの名優が担当している。

小説以外にも詩の朗読CDというものもある。日本の詩人では、石川啄木や萩原朔太郎、中原中也など有名な詩人、歌人をおさえている。海外のものでは、ボードレールやランボー、ゲーテなどがある。

夏になると季節から怪談の朗読CDの貸出が増える。作家、吉行淳之介が監修を務めた『怪談傑作集』に収められている江戸川乱歩や内田百閒の作品は、久米明や永井智雄らの迫真の語りによって、より一層怖さが増すことだろう。

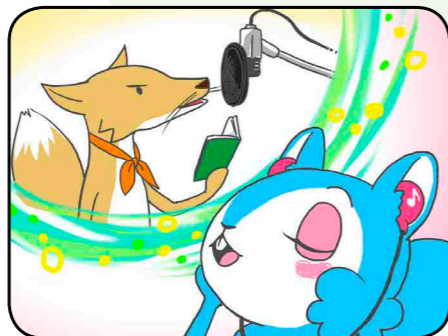
また、少し変わったものでは、『日本国憲法（全文）』というものがある。全103条収められており、佐藤慶の朴訥とした声色で淡々と述べられている。憲法を読んだみたいが手に取りづらい、また、難しい言葉が頻出してなかなか読み進められない、などの理由で敬遠している方にとって最適なものではないだろうか。

## ④ 異なった観点から文学と出会う

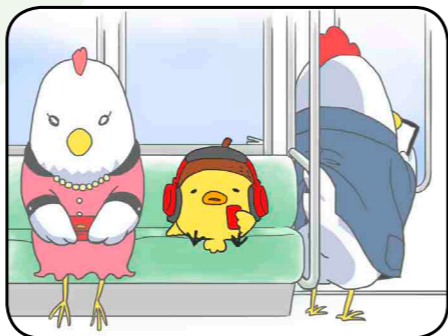
このように朗読CDは多様なジャンルに渡って所蔵している。普段、視聴覚コーナーで音楽CDしか借りたことがない方は、貸出の内の1点でも朗読CDにしてみたいかだろうか。新しい文学の扉がひらくきっかけとなるかもしれない。そして、図書館がそのきっかけを作れるのであれば幸いである。



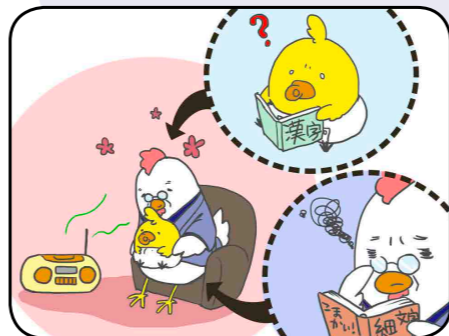
手が出しづらい外国作家の名作も、朗読を聞いただけなら手軽に楽しめる。



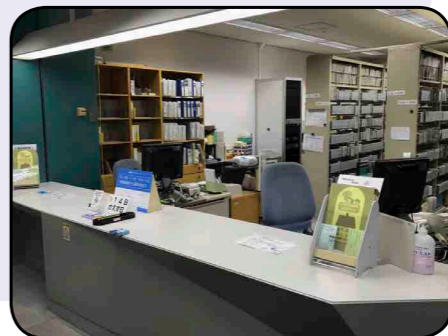
素敵な俳優の演技によって、感動も二倍になるかも。



読書による乗り物酔いに悩むことがない。



音声なので、文字の大きさなどを気にせず楽しむことができる。



中央図書館視聴覚カウンター  
貸出点数15点のうち、視聴覚資料は最大5点まで貸出が可能。



中央図書館視聴覚コーナーの棚  
P(ポピュラー)・C(クラシック)・S(その他)の3種に分類されている。朗読CDはSに該当。

## ◎関連本の紹介

「読み聴き比べ」



本文で挙げた朗読CDは全て書籍でも所蔵している。それらに対して情報の一部を掲載する。本で読んだものを改めてCDで聴き直したり、反対にCDで聴いたものを本で読み返してみよう。新たな感じ方、捉え方になるかもしれない。目で読む文学、耳で聴く文学、それぞれの異なった楽しみ方で味わってみてはいかがだろうか。

●…図書資料 ○…視聴覚資料(CD)

●火花／又吉直樹・著／2015／文藝春秋／全館

●火花／堤真一・朗読／2015／吉本興業／本町

●たそがれ清兵衛／藤沢周平・著／2006／新潮社／中央・本町・野方・鷺宮・東中野・上高田

●たそがれ清兵衛／柳家花緑・朗読／2004／新潮社／中央

●日本国憲法 現代語訳／伊藤真・訳／2014／筑摩書房／東中野

●日本国憲法／佐藤慶・朗読／1993／フォンテック／南台